



# 健康ジャーナル

## 美容エッセジャーナル

女性の美と健康を応援する情報紙

発行所  
有限会社 太閤エージェンシー  
〒116-0013  
東京都荒川区西日暮里4-1-20  
西日暮里エーシービル106C  
年間購読料  
12,000円(税、送料込み)  
デジタル版 ¥9,600円(税込み)  
郵便振替 00190-3-54248

SDGs(事業)「他社から供給され  
料の燃焼、工業プロセス)と  
定(「世界の気温上昇を産業  
2015年に設立された国際  
WFP、UNICEF、WRI  
CO2排出削減目標は、50  
企業版として承認された。  
上流と下流の輸送、販売した  
製品の使用、製品の廃棄等)の  
排出量を測定して削減す  
る。



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

### SCIENCE BASED TARGETS

今年度  
新たに設  
定した二  
酸化炭素  
(CO2)排出  
削減目標  
SBT(SBTi)  
出「購入した製品やサービ  
外」の温室効果ガスとの間接排  
SBT(SBTi)は、CDP、WRI  
2015年に設立された国際  
定(「世界の気温上昇を産業

### SBTイニシアチブの認定を取得



「社会」「経済」の二側面にお  
「シルバートナー」と  
「ゴールドパートナー」の2  
種類があり、シルバートナー  
はSDGsの「環境」  
11月9日に本制度開始以  
降初となる「ぎふSDGs推  
進パートナー」が決定し、同  
社は「ゴールドパートナー」  
に登録された登録区分に  
は「シルバートナー」と  
「ゴールドパートナー」の2  
種類があり、シルバートナー  
はSDGsの「環境」  
11月9日に本制度開始以  
降初となる「ぎふSDGs推  
進パートナー」が決定し、同  
社は「ゴールドパートナー」  
に登録された登録区分に  
は「シルバートナー」と  
「ゴールドパートナー」の2  
種類があり、シルバートナー  
はSDGsの「環境」

### ぎふSDGs推進ゴールドパートナーに登録される

### フードアップ 正業

## SDGsを積極的に実践する健康食品の受託製造メーカー「中日本カプセル」

健康食品の受託製造で業界を牽引する中日本カプセル(本社岐阜県大垣市、TEL:0584-033101)は様々な特徴のあるソフトカプセルの開発・生産を得意として  
いる国内トップクラスの企業だ。その同社がソフトカプセルの製造時に発生する皮膚残渣を有効活用する「ゼライクルプロジェクト」等をはじめとしたSDGs  
(持続可能な開発目標)関連事業に積極的に注力している。また海外展開の強化としてベトナム・ハノイに現地法人を設立するなど国内外で積極的な動きを見せている。



中日本カプセル株式会社

革命前より2℃を十分に下  
回る水準に抑え、また1.5℃  
に抑えることを目標とする  
が求める水準と整合した温  
室効果ガス削減目標を対して  
科学的根拠に基づいているか  
の検証を行い、認定を付与し  
ている。

「ゼライクル」の推進・普及に貢献  
健康食品に使われるソフト  
カプセル製造時にはカプセル  
を打ち抜いた後のカス(ゼラ  
チン皮膜残渣)が不可逆的に  
発生するが、この皮膜残渣を  
ではなく、アミノ酸肥料として  
展開できることを提案して  
いる。ゼライクルは、ゼラチ  
ン皮膜残渣について、  
①そのままの形状のみで  
なく、②分解した液状、③  
乾燥・粉砕したチップ状、④  
種類をラインアップすること  
で、より利用しやすい形での  
提供が可能となる。  
「ゼライクル」の取組に  
ついて2023  
年3月に、みど  
りの食料ステ  
ムに基づき、  
基盤確立事業  
の認定を受けてお  
り、現在、化  
肥  
料の代替効果を肥料メーカー  
や地元高校、行政機関と連携  
して推進している。  
同社では産業廃棄物として  
処分していたソフトカプセル  
製造時に発生するゼラチン残  
渣を、肥料として再資源化する  
「ゼライクル」において、販売  
活動の強化、生産設備の増強等  
に取り組むことで普及拡大を  
図っており、化学肥料の使用低  
減に貢献している。  
主な事業内容は、①農業学校  
や農業者等と連携し、様々な  
作物における栽培実証試験を  
実施、②製品カタログや製品  
紹介動画の作成などのPR活  
動を充実させる、③展示会の出  
展を通して新規顧客の獲得を  
図る、④需要に応じた生産を  
行えるよう肥料製造用の設備  
を増強していく等を令和10年  
(2028年)9月までを計画  
実施期間として今後注力して  
いく。

### Gely. (ゼライクル)

ゼライクルは、ゼラチン皮膜残渣を有効活用する「ゼライクルプロジェクト」の成果として生まれた。ゼライクルは、ゼラチン皮膜残渣を有効活用する「ゼライクルプロジェクト」の成果として生まれた。ゼライクルは、ゼラチン皮膜残渣を有効活用する「ゼライクルプロジェクト」の成果として生まれた。

生徒による流し込み風景  
流し込み後の水田の様子

### Gely. (ゼライクル)

「ゼライクル」の推進・普及に貢献  
健康食品に使われるソフト  
カプセル製造時にはカプセル  
を打ち抜いた後のカス(ゼラ  
チン皮膜残渣)が不可逆的に  
発生するが、この皮膜残渣を  
ではなく、アミノ酸肥料として  
展開できることを提案して  
いる。ゼライクルは、ゼラチ  
ン皮膜残渣について、  
①そのままの形状のみで  
なく、②分解した液状、③  
乾燥・粉砕したチップ状、④  
種類をラインアップすること  
で、より利用しやすい形での  
提供が可能となる。  
「ゼライクル」の取組に  
ついて2023  
年3月に、みど  
りの食料ステ  
ムに基づき、  
基盤確立事業  
の認定を受けてお  
り、現在、化  
肥  
料の代替効果を肥料メーカー  
や地元高校、行政機関と連携  
して推進している。  
同社では産業廃棄物として  
処分していたソフトカプセル  
製造時に発生するゼラチン残  
渣を、肥料として再資源化する  
「ゼライクル」において、販売  
活動の強化、生産設備の増強等  
に取り組むことで普及拡大を  
図っており、化学肥料の使用低  
減に貢献している。  
主な事業内容は、①農業学校  
や農業者等と連携し、様々な  
作物における栽培実証試験を  
実施、②製品カタログや製品  
紹介動画の作成などのPR活  
動を充実させる、③展示会の出  
展を通して新規顧客の獲得を  
図る、④需要に応じた生産を  
行えるよう肥料製造用の設備  
を増強していく等を令和10年  
(2028年)9月までを計画  
実施期間として今後注力して  
いく。



### ベトナムに現地法人を設立

ベトナムにおける事業の拡大を図るため、2023年10月4日にベトナムのハノイ市に子会社(CJT VIETNAM CO.,LTD)を設立した。既に2020年5月にハノイ市内に駐在員事務所を設立しており、当初は現地企業に同社のベトナム進出の本気度を見せようことが目的で、常駐者を置かず出張ベースで対応していたが、取引企業が増えるにつれて要望が多岐にわたり、現地法人化が必要となり、今回の設立に至った。  
法人化したことで今後は、ベトナム企業からの健康食品・サプリメントのOEM受

注が可能となった。ベトナムでも日本製の健康食品の良さを理解して販売したい企業が多数存在しており、よりローカル企業と繋がるために小回りの利く対応を進めていくことができる。  
さらに市場調査、販路開拓、商品登録、イベント企画および運営、SNS広告等による日本企業のベトナム進出へのサポートも行う。日本製というメリットを最大限に活かすため、SNSなどを活用したベトナム語による広告展開を行うことで販路の拡大を図っていく。そのために、現地(ハノイ)に日本人責任者と日本語が堪能なベトナム人スタッフが常駐させ、また日本本社にも日本語が堪能なベトナム人スタッフが常駐しサポート体制を整えていく。

CJT VIETNAM CO. LTD  
現地責任者: 佐々木康  
sasaki@cjtjp.co.jp